執行を日常化させるな

国会会期中の死刑執行

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

４月27日、法務省は、東京拘置所で田中政弘さん、大阪拘置所で名田幸作さん、福岡拘置所で小田義勝さんら３人への死刑を執行しました。長勢甚遠法務大臣は昨年12月25日に続いて二度目の死刑執行命令を出したのです。前回のクリスマス執行も大きい衝撃でしたが、さらに今回は国会会期中での執行にまで踏み切ったのです。

★☆★

国会会期中の執行は２０００年11月にもありましたが、それは臨時国会閉会前日のことであり、今回のように重要法案が審議されているさ中での執行は極めて異例のことです。会期中は法務大臣も多忙を極めており、また、執行に抗議する国会議員らの活動により国会運営に支障をきたすことのないように死刑の執行は避けられていました。

この異例の執行は、政府与党が数にものを言わせ、野党の反対の声を封じて強行採決を重ねるようになっている政治状況とも密接に結びついているものです。

★☆★

国会会期中の執行を抑制するという歯止めまでもがなくなれば、法務省のフリーハンドによって執行はいっそう乱発されていくことでしょう。それは、これまでのような死刑制度をただ維持するためにだけとしか思えない執行から、死刑の執行を日常的に行う死刑大国への道にほかなりません。

★☆★

ちょうど執行があった27日、アムネスティ・インターナショナルは世界での死刑執行数が減少していることを発表ました。死刑制度自体は残している国がまだ少なくないとはいえ、実際に執行を行っている国はごく一部の国に限られてきています。２００６年における死刑執行の91パーセントは６カ国（中国、イラン、イラク、パキスタン、スーダン、米国）に集中していると報告されています。日本はそれらの国と肩を並べようとしているのでしょうか。

★☆★

残念なことに東京拘置所の新処刑場がまたも使われてしまいました。約百人の日本の死刑確定囚のうち半数が収容されている東京拘置所では、まさにいつおとずれるかわからなくなった執行への不安と緊張が、死刑囚のみならず刑務官の人々にも高まっているでしょう。

今回の死刑の執行に抗議し、執行が日常化されてしまうことのないよう訴えるものです。